

令和6年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【後期】

上尾市立大石中学校

上尾市立大石中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

- 思いやりのある生徒
- 自ら学ぶ生徒
- 進んで身心を鍛える生徒

学校課題研究主題

「生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、異なる考え方を組み合わせたよりよい学びを実現する授業改善」

－ICTを活用した表現する機会を通して－

学力・学習状況調査の結果

R6 全国学力・学習状況調査	R6 埼玉県学力・学習状況調査	R5 上尾市立小・中学校学力調査
<ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学、ともに平均正答率は全国平均を上回っている。 ・国語では、表現を工夫して物語の場面を書き、説明する問題の正答率が低い。 ・数学では、複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力レベルの平均は、昨年度に比べて国語が1レベル、数学が1レベル、英語が2レベル伸びている。 ・国語の3年生、数学の1年生以外は、学力を伸ばした生徒の割合が埼玉県平均を上回っている。 ・学習方略・非認知能力ともに、ほぼ全ての数値が埼玉県平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、ほぼ全ての領域について、全国・市平均を上回っている。特に書くことについて昨年度と比べて伸びが見られる。 ・数学では、1年生は主体的に学習に取り組む態度において全国平均を上回っている。2年生は全ての領域において全国平均を上回っている。 ・英語では、全ての領域について全国・市平均を上回っている。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ①知識を確実に習得し、既習事項と関連付けながら活用できる力。 ②基礎的・基本的な語彙力。 	<ul style="list-style-type: none"> ③未知の問題に対し、その解決のための方法を考える力。 ④自らの考えを、理由や根拠をもとに表現する力。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤主体的に学習に取り組み、自身の課題解決に向けて粘り強く取り組む力。 ⑥自らの学習を見通したり、振り返ったりする力。

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲を高め、基礎基本を確実に定着させる展開の工夫、改善。 ○身に付けた知識を相互に関連付けて深く理解させたり、知識を他の学習や生活の場面で活用させたりする発問や活動の工夫、改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決型の学習課題設定を通して、その解決方法の計画や検証から思考・判断させる工夫、改善。 ○協働的な学びを通して、目的や状況に応じて、理由や根拠をもとに意見交換させ、考えを深めて視野を広げさせる工夫、改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学びに向かう仕掛け作りを意識した課題設定によって、一人一人の学びに向かう力を高める工夫、改善。 ○課題を明確化し、振り返りの時間を確保することで、本時の学習の整理を行う工夫、改善。

本校の特色ある取組

- ICTを活用した学習指導の推進。
- 小中連携事業による中学校区内の小学校との情報交換と共通事項の設定。
- 学校課題研究を通じた授業改善。

家庭教育との連携

- シラバス等による情報公開。
- さくら連絡網の活用。
- 家庭学習の推進。
- 保護者アンケートの活用。

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①知識を確実に習得し、既習事項と関連付けながら活用できる力。 ②基礎的・基本的な語彙力。	③未知の問題に対し、その解決のための方法を考える力。 ④自らの考えを、理由や根拠をもとに表現する力。	⑤主体的に学習に取り組み、自身の課題解決に向けて粘り強く取り組む力。 ⑥自らの学習を見通したり、振り返ったりする力。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	② ④	②新出漢字や語句を正しく書き、その意味や用法を調べて理解する取組。 ④スピーチや作文を定期的に行い、自分の考えを表現する取組。	
社会	③ ⑥	③歴史など過去の事象を振り返りながら、現代社会の諸課題を捉える取組。 ⑥単元の前あての提示と、単元のまとめや振り返りの取組。	
数学	① ④	①演習や小テストの実施により、基礎的な技能を定着させる取組。 ④証明や説明の問題から、根拠をもとに筋道を立てて説明する取組。	
理科	① ④	①実験や技能テストを通して実験技能を習得するとともに、既習事項の振り返りを行い、より多くの知識を習得する取組。 ④レポート作成やポートフォリオ作成により、学習内容をまとめ、結果や既習事項から自らの考えを表現する取組。	
外国語	② ⑤	②新出単語・基本的文法事項を身に付けさせ、表現できる取組。 ⑤自己を振り返り、苦手分野を克服するために、4技能をバランスよく養う取組。	
音楽	①	①楽器演奏や歌唱の時間を毎時間取り入れることによる、技能の習得を図る取組。	
美術	④	④鑑賞の授業やアイデアスケッチ、ポートフォリオの作成を通して、自分の考えを広げ、表現する取組。	
技術	①	①実習や制作をする場面を多く設定し、習得した知識・技能を活用・実践する取組。	
家庭	③	③実習や制作をする場面を多く設定することで、習得した知識・技能を活用して、話し合い活動を通じて課題解決する取組。	
保健体育	②	②運動量を確保し、基本的な技能や動きを身に付けさせる取組。	
特別の教科 道徳	④	④「〇〇という理由で、～だと思います。」という発表の仕方を定着させ、自分の気持ちを明確化し、表現できる力を育てる取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

- | | |
|-----------------------------------|---|
| ○ I C T 機器を活用した学習指導の推進 | <ul style="list-style-type: none">・一人一台の I C T 端末を活用した授業の実施。・ I C T を活用した多くの事例や課題の提示。・多くの人とつながって、自分の意見や考えを表現することができるコミュニケーションのためのツールとしての活用。・ I C T の活用が目的にならない授業の確立。授業の目的のための手段であることを意識した授業作り。 |
| ○小中連携事業による中学校区内の小学校との情報交換と共通事項の設定 | <ul style="list-style-type: none">・小中連携職員研修、部活動交流、出前授業、生徒指導の情報交換等を通じた、計画的な9年間の継続性の高い指導。・中1ギャップを極力減らし、不登校生徒を増やさないための、中学校区での対応。・大石中学校区における、学力、体力、特別支援教育、生徒指導、教育相談、保健養護の分野での共通の取組。 |
| ○学校課題研究を通じた授業改善 | <ul style="list-style-type: none">・協働的な学びを通じた生徒の学習に対する主体性の向上。・表現力を高める手立てとしての、 I C T 活用。 |

家庭教育との連携

- | | |
|---------------|---|
| ○シラバス等による情報公開 | <ul style="list-style-type: none">・各教科のシラバス（指導の方針、評価、年間指導計画）の学校ホームページへの掲載。・三者面談、保護者会、公開授業の実施。 |
| ○さくら連絡網の活用 | <ul style="list-style-type: none">・欠席生徒への担任からの連絡、翌日の予定の確認、学校からのお便りの配信等、本人・保護者の安心できる連絡体制。 |
| ○家庭学習の推進 | <ul style="list-style-type: none">・自主学习ノートによる家庭学習習慣の確立。・Chromebook を持ち帰って課題に取り組めるようにするための、校内のきまりの整備。 |
| ○アンケートの実施 | <ul style="list-style-type: none">・授業アンケートや生活アンケートを通じた、生徒の実態把握と授業等の改善。 |